

29P1-am352

東京近郊と地方におけるインフルエンザ感染パターンの比較

○近藤 澄子¹, 田中 秀和¹, 佐藤 博泰², 石川 尋³, 田口 章⁴, 岩木 和夫², 松田 りえ子⁵, 林 譲⁵, 矢島 毅彦⁶(¹ピノキオ薬局, ²奥羽大薬, ³QQ堂薬局, ⁴メディカル・コア ふたば薬局, ⁵国立衛研, ⁶東邦大薬)

【目的】薬局での抗インフルエンザ薬販売量の日間変動から、インフルエンザの地理的な感染経路と伝播速度を推定する。これまでに、東京および首都圏における薬局での数シーズンのデータにより解析を行ってきた。ここでは首都圏より離れた地域でのデータ解析を行い、首都圏に比べ地域間に人の流れが少ないあるいはほとんど考えられない独立した地域間での感染経路や速度の推定を行い考察した。また、東京近辺での解析結果との相関性についても考察した。

【方法】栃木県内9~12薬局、福島県内4~5薬局における3シーズン(03/04, 04/05, 05/06 シーズン)のデータを解析した。同一シーズンで、2つの薬局における抗インフルエンザ薬(タミフルカプセル)の毎日の調剤量データから相互相関関数を計算し、ラグ(調剤量ピークの日差)を求めた。全ての2薬局組み合わせに対してラグを計算し、それぞれの薬局に対して相対ラグを求めた。相対ラグを地図上にプロットし、感染経路と感染速度を推定した。

【結果と考察】インフルエンザは人から人へ感染するので、感染経路は人の移動、つまり交通網に密接な関係があると推定される。今回解析した地域では毎日の人の流れは各薬局の地域内が主であり、地域間ではほとんどないと思われる。推定結果においても栃木県内、福島県内および両県間のそれぞれにおいて、感染経路や速度が特定できる顕著な傾向は観測できなかった。この結果は、感染に人の流れが大きく影響していることを証明したものである。また、東京近辺の結果も含めた解析では、やはり顕著な傾向は観測できなかったが、各シーズンでの広域的な感染速度や経路については確かな傾向を示唆する結果が得られた。両県ともまだ薬局数やデータ数も少ないため、今後更に増やしての詳細な解析が必要である。